

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [教育活動](#) | [行動こそ真実①](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[🔍 キーワード検索はこちら](#)

行動こそ真実①

1、決意だけでは意味がない

なにごとにも成果や結果は、すべて「行動の集積」によって生まれる。だから成果や結果を変えたいならば「行動」を変える以外に方法はない。わたしという個人であれば「わたしの行動」を変えればいいが、組織であれば、ひとりひとりの「行動」を変えていかなければならない。それは人を育てる「教育」の問題である。もちろん「行動」のうらづけとなる「決意」があることは前提条件であるが、その「決意」とはどこから生まれてくるのであろうか。それは究極的には人の「生き方」の問題である。

2、自分で考える力

仕事の成果の8割は、費やした人・時間の2割から生み出している。これは、「パレートの法則」のなかの具体例のひとつである。組織のマネジメント職やリーダー職にあるものは、このことをよく学ばねばならない。そしてその2割に該当するものをしっかり見極め、その2割が最大限に成果を生み出せるよう、環境整備をすべきである。ありとあらゆる場面でこうしたことを考えていくのが、マネージャーやリーダーの仕事だ。重要な2割ではあるが、残りの8割が必要ないわけではないから、間違えてはいけない。「構成要素にかたよりのある」というのがパレートの法則だから、仮に8割を削ぎ取っても、成果を出していたはずの2割がさらに8：2に分かれることになる。逆に言えば残り8割のなかからでも成果が生み出せるということである。だから優れたリーダーは与えられた人材や限られた時間内であっても成果を生み出せるのである。8：2の2割はどういう人材かという、自分で考える力を持つ人材だ。あとの8割はただ言われたことをやるだけの人と、言われたことを満足にやれない人だ。この状態を、「2：6：2の法則」とよぶ。100人の組織に、10人単位のグループを10個つくったとしよう。それぞれのグループに人材教育ができるリーダーが存在していたらその組織の力は格段にアップする。ここでも求められるのは「教育」の力である。

3、「教える」とは学び手に「行動」を身につけさせること

簡単なOJTのあとで「わからないことがあれば、あとは聞きなさい」でも教えられない。「背中を見て仕事を覚えなさい」なんてまるでカラバゴス。どうすればいいか悩みはつきないが、学び手の「行動」を観察・分析することから見えてくるものがある。「行動」に着目し、その「行動」を改善するというアプローチである。行動こそ真実である。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.